

八ヶ岳通信

■総合博物館

総合博物館創立20周年を迎えて

八ヶ岳総合博物館が開館して今年10月で20周年を迎えます。平成12年には八ヶ岳麓文芸館を併設し、一層充実した施設となりました。この間多くの方々のご懇情に支えられ、入館者は延べ40万人を超えるました。茅野市になくてはならない存在として、市民の方々はもとより、当地を訪れる多くの方々にご利用いただきましたことを心より感謝申し上げます。

当館は「りんどうの里 高原生涯学習都市 茅野」の科学的・文芸的情報センターの一つとして市民のみなさんが、郷土の自然や人々の営みを学ぶことにより、郷土を愛し、未来を創造する人を育てる学習機関としての役割を持って創立されました。

八ヶ岳を背景に演奏者と交歓したミュージアムコンサート、華やかな尺八や琴、三味線に浮かれた元旦まつり、野鳥の森でクロツグミの美声に感嘆した探鳥会、川の中にこんなにたくさんの生き物がいるのかと驚かされた川虫観察会等のふるさと講座、歴史を読み解くひそかな楽しみを期待



蝶展・鉄道展などの特別展等々数多くの展示や公開講座を開催して参りました。また、次世代を担う地元の子どもたちの学習活動を支援する「坂本養川…大河原せぎ」案内、とうふ作りなど博物館活用指定学級も行ってきました。

して学んだ古文書講座、ひな人形作り・しめ縄作り等のロビー体験、竹とんぼ・ペットボトルロケット作り等の楽しい工作教室、



《とうふ作り》

このように当館は、茅野市に生まれ、育ち、暮らす幸せと喜びの実感の場であり、市民の皆さんのがら自ら学ぶ学習の場として、また当市を訪れた皆さんには、茅野市の自然や人々の営みの豊かさをご理解いただく場として、体験を通して感得していただけるように企画・提案・実践してまいりました。それが「今を生き、将来に生きていく確かな喜びと自信が持てる」生涯学習の真の意味だと確信しております。

そのためには、博物館の人的・組織的・収蔵物等の諸要素が有機的につながりあい、活性化されていかなければなりません。そして館員の頭と手と脚と熱い想いが活動の基本となっていかなければなりません。それに加え研究活動・調査活動が必要であり、それを裏付ける資料の収集、整理、保存（野外現地の保存も）の重要性を改めて再確認したいと思います。

創立20年を迎えるにあたって、これまでの実績とそれを可能にした調査活動・研究活動は何だったのかを精査・分析し、明確にしていかなければなりません。そして、われわれは博物館創立当初の熱い想いに学びながら市民に親しまれ楽しまれ、喜ばれる博物館を目指し奮励努力して参りたいと思います。

茅野市八ヶ岳総合博物館、八ヶ岳麓文芸館
館長 茅野 靖夫

茅野市に関係する古い写真などを募集！

写真などでふりかえる茅野市50年展開催

今年、茅野市は市制施行50周年を迎えます。そこで、写真などを展示し茅野市の50年を振り返りたいと思います。

お祭り、災害、記念行事などの写真、取り壊された建物や橋などの写真・絵画、30年代、40年代の古い品物など当時の生活を振り返られるものなどを募集します。6月15日（日）までにご連絡ください。お借りした品物は、展示会終了後お返しします。連絡先：八ヶ岳総合博物館 ☎ 73-0300 E-mail y.hakubutsukan@city.chino.lg.jp

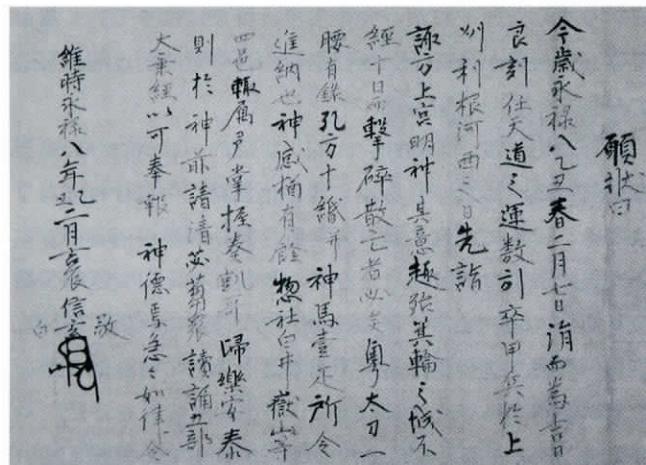
信玄と諏訪　－信玄が諏訪に遺したもの－

平成19年はNHK大河ドラマ「風林火山」の放映にあわせて、当守矢史料館でも多くの企画展やイベントを行いました。企画展は下記の通りです。

- ・「武田信玄の古文書」 1月1日（月）～7日（日）
- ・「諏訪と甲斐武田氏　一武田信玄以前の諏訪と甲斐一」 3月3日（土）4月～13日（金）
- ・「諏訪と武田信玄　一武田信玄の諏訪支配一」 4月14日（土）～6月24日（日）
- ・「武田信玄の史跡　一戦国時代の遺跡と信玄の足跡一」 7月28日（土）～9月24日（月）
- ・「武田勝頼と諏訪　一勝頼時代の諏訪神社と御柱祭一」 11月23日（金）～12月24日（月）

当館は、諏訪上社の神長官を江戸時代まで勤めていた、守矢家に伝わる古文書を収蔵しています。このため、諏訪上社を厚く崇敬していた武田信玄・勝頼の時代の古文書を多く所蔵しています。

守矢家で所蔵している古文書により、「武田信玄の古文書」「諏訪と甲斐武田氏」「諏訪と武田信玄」「武田勝頼と諏訪」の展示を行いました。



《永禄8年(1559)2月武田信玄願文》

天文11年（1542）に信玄が諏訪へ侵攻してきた様子を記録した『守矢頼真書状』には、現在の茅野市から諏訪市の地名が多く登場し、時間の経過に沿って合戦の状況を記しています。当時の状況を知るには非常に貴重な史料です。

企画展の他に、2回イベントを開催しました。

一つは、守矢史料館と諏訪市博物館・下諏訪町立諏訪湖博物館3館合同で、5月6日（日）に諏訪市文化センターでシンポジウム「信玄と諏訪　－信玄が諏訪に遺したもの－」を開催しました。3館の学芸員に加え、韮崎市教育委員会の山下孝司氏、帝京大学山梨文化財研究所所長の萩原三雄氏、信州大学教授の笠本正治氏を迎え、信玄と諏訪との関わり、信玄が諏訪を支配したことが諏訪の町づくりにどのように生かせるかなど多角的な視点からの報告や講演がありました。

もう一つは、「武田信玄の史跡」の企画展に関連して「信玄の時代の遺跡」という講演会を、9月15日（土）に茅野市役所で行いました。

講演は当館学芸員のほか、長野県埋蔵文化財センターの河西克造氏を迎え、諏訪地方の山城と茅野市内の戦国時代の遺跡についての内容で行いました。諏訪地方には戦国時代の遺跡が数多くあり、武田氏支配下の諏訪の状況を遺跡から考えるという講演会でした。

企画展開催中、多くの来館者があり、開館して以来最高の来館者数となりました。厚く御礼申し上げます。



平成20年度の企画展

来年度も企画展を行います。ふるってご参加ください。

企画展 「信濃の武将たち」

平成20年4月12日（土）～5月25日（日）

村上義清や真田昌幸をはじめとする、信濃の諸将に関する古文書や古記録を展示します。

企画展 「幕末の諏訪」

平成20年8月9日（土）～9月23日（火）

江戸末期の偽勅使事件や水戸浪士との樋橋合戦を中心として、当時の騒然とした状況を、古文書や古記録により展示します。

企画展 「丑年の古文書」

平成21年1月1日（木）～1月18日（日）

過去の丑年に何があったかを、古文書や古記録により展示します。

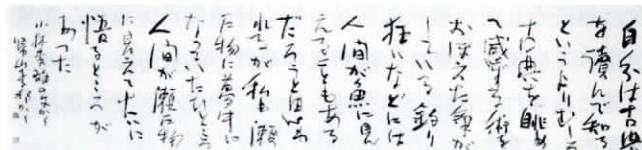
「津金孝邦展

平成19（2007）年11月28日（水）から12月27日（木）まで、茅野市美術館では原村出身の書家、津金孝邦（つがねよしくに）氏の書展を開催しました。

昭和4（1929）年生まれの津金氏は、書家である父、津金雀仙に師事し、古典・古筆に学ぶなかで、自身の書の造形化を体現しました。日展文部大臣賞や恩賜賞・日本芸術院賞を受賞するなど現代書道界の第一線で活躍を続ける書家です。津金氏は現在、日展理事、読売書法会常任総務などを務め、後進の育成や芸術振興にも力を注いでいます。

本展では、新作19点や上述の受賞作など計26点を展示しました。森鷗外の詩をはじめ、縦4mを越える空海の詩句による大字、良寛詩や万葉秀歌の六曲一双屏風、小林秀雄の言葉など、迫力のある多彩な作品が並んだ展示室は、実際の広さ以上の拡がりを持っていました。展示室に足を踏み入れて、墨の線と紙の余白の宇宙に漂っているような感覚をおぼえた方も少なくないでしょう。

特徴的であるのは、出品作のほとんどが日本人の詩や言葉を素材としていたことです。「書は言盡（ことだま）」と語る津金氏の言葉からも、氏が自らの心に響く素材を選択していることがうかがえます。日本語が素材となっていることで、漢字、ひらがな、カタカナの響き合いを作品から感じることができました。また、素材自体の言葉の組み合わせ方の鮮やかさに気付くこともできました。



《小林秀雄「年齢」より》

さらに、津金氏の書からは、線の表情の豊かさを感じることができます。一つとして同じ線ではなく、言葉によって、紙の場所によって線の表情が変わっています。線の強弱や勢いだけでなく、明るい線、暗い線、優しい線、伸びやかな線、縮こまつた線など、線にも様々な表情があることを津金氏の書は示しています。題材と一緒にになって自在に動



いのちの河」

く線は音楽的でもありました。「書は手で書くダンス」「メロディーが整っている作品が良い」との津金氏自身の言葉は、まさに音楽に通じるものがあります。

津金氏によるギャラリートークの際には、作品について、ご自身の歩みについて、書についてさまざまなお話をお聞きすることができ、氏の情熱と深い精神性に接する機会となりました。ギャラリートークは、一般の来館者をはじめ、美術館サポーター、高校生向けにも何回か行われ、津金氏と様々な地域の方々とが交流をもつ機会になりました。

12月15日、関連イベントとして、茅野市民館マルチホールを会場に「書のワークショップ 大きな紙に大きな字を書く」が行われました。100名を超す参加者が、全紙(135cm×70cm)に太筆で「命」の字を書いたこのイベント。講師である津金氏が参加者に指導したことは、筆を持つ前にまず書く文字をイメージし、足裏で紙の感触を味わうことでした。紙に墨をしみこませるプロセスや、全身を使って字を書くことなど、参加者に「習字」ではなく「書」を知ってもらうワークショップであったといえるでしょう。



平成20（2008）年度の展覧会・イベント

「地域をみつめる」をテーマとした展覧会・イベント、例年好評の木之下晃ワークショップ、さらに諏訪市出身の彫刻家・立川義明氏の展覧会を開催します。

・第1期収蔵作品展「地域をみつめる」

4月11日（金）～6月22日（日）

・篠原昭登展 5月28日（水）～6月9日（月）

・向井潤吉展 7月12日（土）～8月24日（日）

・土壁ワークショップ 講師：藤森照信氏

7月20日（日）、21日（月・祝）

・木之下晃ワークショップ

「寿齢讃歌III－人生のマエストロー」公募写真展示会

8月28日（木）～9月8日（月）

・夜樂塾 講師：篠原昭登氏、木之下晃氏、藤森照信氏

8月28日（木）

・立川義明展 10月8日（水）～11月3日（月・祝）

縄文人のアクセサリー



《縄文のビーナス》

茅野市が誇る日本最古の国宝「縄文のビーナス」は、今からおよそ5000年前、縄文時代の中期に造られた土偶です。原始美術を今に伝えるビーナスの模様は頭部に集中しています。ビーナスのちょこんと出ている耳には小さな穴が開いています。これはピアスの穴なのでしょうか。

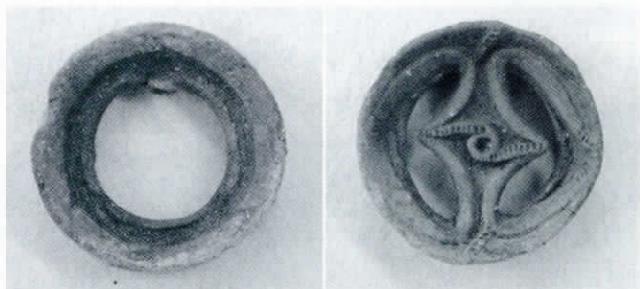
茅野市では、軟らかい石を薄く削った「けつ状耳飾り」や、粘土で作った「土製耳飾り」が縄文時代の遺跡から、見つかっています。

土製耳飾りは、小さいものは直径1cmくらい、大きいものは9cmほどで、滑車のような形をしています。漆などで色をつけたものや、凝った透かし彫りをしてあるもの、模様が施されているものが見られます。これを「ピアスの穴」にはめ込んでいたようです。

土製耳飾り

現代人の「ピアスの穴」にはとても入りそうにない大きな耳飾りは、小さな耳飾りから徐々に大きな耳飾りをする事によって大きな穴になり、これらの耳飾りをつけられるようになったようです。

土製耳飾りは、すべての遺跡から発掘されるのではなく、上ノ段遺跡（北山）や一ノ瀬遺跡（米沢）などの、縄文時代後期から晩期（4000年位前～3000年位前）の一部の遺跡で主に見つかっています。そして、縄文時代の終わりとともに姿を消していきました。



《茅野市内の遺跡で見つかった土製耳飾り。
直径はおよそ4cm 厚さは1.5cm》

今年度の発掘調査から

平成19年度は茅野市街地を中心とした発掘調査が各所で行われ、沖積地における縄文時代・古代・平安・中世の時の状況が少しずつわかつてきました。特に塙原地区に位置する阿弥陀堂遺跡では、立石を持つ大形の切り炬燵状の石囲い炉を持つ縄文中期後半の竪穴住居址や、縄文後期前半の敷石住居址が検出され、沖積地も八ヶ岳山麓台地同様に縄文時代においても重要な生活の舞台であったことが判明しました。また、昭和57年度より断続的に調査が続けられわかりつつあった平安集落についても累計で43軒の竪穴住居址や掘立柱建物址の検出から大規模な集落が展開していることが裏付けされました。

上原地区に位置する上原城下町遺跡は、市域で最も占有面積の大きな遺跡です。住宅建設等に伴って数カ所が調査され、縄文時代から近世に亘る大規模な集落であることが判明しつつあります。特に上原区公民館地点では、弥生時代・古墳時代・平安時代・中世・近世と何回もこの地が利用さ

れた痕跡として、竪穴住居址や堀立柱建物址が重複して検出されています。特に古墳時代の集落のあり方は、永明寺山麓に造られた古墳との関連、また、中世の上原の状況等を探る上に重要ないくつかの所見が得られています。



《阿弥陀堂遺跡調査風景》

茅野市の博物館・文化財だより ハケ岳通信 No.26 発行年月日 平成20年3月31日

編集・発行 茅野市ハケ岳総合博物館 ☎391-0213	茅野市豊平6983番地	TEL (0266) 73-0300
茅野市神長官守矢史料館 ☎391-0013	茅野市宮川1389番地の1	TEL (0266) 73-7567
茅野市美術館 ☎391-0005	茅野市仲町1-22	TEL (0266) 82-8222
茅野市尖石縄文考古館 ☎391-0213	茅野市豊平4734-132	TEL (0266) 76-2270